

発 言 通 告 書 要 旨 （1 枚目／全 3 枚）

氏 名 東野 真樹

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1			<p>国家戦略特区を活かした加賀市の成長戦略について</p> <p>消滅可能性都市と指摘されている加賀市にとって、市民サービスを継続させ、さらに向上させていくためには、10 年、20 年先を見据えた成長戦略を打ち出し、民間に投資を促して、財政を強化していくことが不可欠であると考えます。</p> <p>加賀市は、デジタル田園健康特区に指定されたことにより、全国の多くの自治体や民間企業、政府からも注目されてきている。このような中、これまで行政サービス、医療、福祉、公共交通、産業の創出など、あらゆる分野において他の自治体ではできない取組や人材の育成を行ってきたが、提案理由説明での 5 つのビジョンの中には、投資を呼び込み、財政を強化するための成長戦略と思える項目が見当たらない。山田市政における成長戦略とは何か。国家戦略特区をどう活かすのか。成長戦略に対する市長の考え方を問う。</p>	
2			<p>未来型商業エリアの商業施設について</p> <p>未来型商業エリアについては、若者世代からは実現を求める声が多く出ている。実際に大聖寺実業高校との意見交換会や中学生議会の中でも、加賀市には、若者が集い、遊べる場所がないので、新たに加賀温泉駅周辺につくるべきだという意見を多く聞いており、私の地元の若者からも実現を求める声が多く上がっている。</p> <p>また、作見町を中心とする地権者の 90%以上の同意も得ていると聞いている。その一方で、加賀市につくっても上手くいくはずがないという意見や、優良農地を無くすなという意見も出ている。</p> <p>市の玄関口である加賀温泉駅周辺を整備していく上では、市民の理解を得るため「民間が果たす役割」「行政が果たす役割」「期待する効果」を丁寧に説明していく必要があると考えるが、南加賀で唯一の消滅可能性都市と指摘され「若者の流出を防ぐ」ため、また「市の財政を強化」するために、人口減少対策として一丁目一番地で進めてきたこの政策に対し、市長は今後、どのように進めていこうと考えているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 （2枚目／全3枚）

氏 名 東野 真樹

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
3	(1)		<p>飼い主のいない猫の不妊・去勢手術助成事業について 事業導入後の成果について</p> <p>近年、地域における飼い主のいない猫（いわゆる地域猫・野良猫）に関する相談が増加傾向となり、糞尿被害、餌やりトラブル、動物虐待の誘発など、様々な生活環境上の問題が生じてきている。</p> <p>このことを踏まえて、加賀市では令和4年4月から市内で保護猫活動を行っているボランティアの方々を対象に、飼い主のいない雌猫の不妊手術に5,000円、雄猫の去勢手術に4,000円を助成する事業を進めてきているが、本制度を利用した件数の推移状況を示せ。</p> <p>また、相談件数や捕獲ゲージ等の貸出件数も踏まえて、地域の飼い主のいない猫の数の変化については、どのように分析しているか。</p>	
	(2)		<p>助成拡充の検討について</p> <p>近隣自治体では、助成枠の拡大や、ボランティア団体との連携強化、TNR活動（捕獲・不妊手術・元の場所へ戻す）の支援などが進んでいると聞いている。</p> <p>その中でも、負担が大きい手術の助成額について、小松市では雌猫の不妊手術に8,000円、雄猫の去勢手術に5,000円を助成しているとのことであり、能美市も同様に最安値の病院で自己負担がほぼないように助成額を設定しているとのことである。</p> <p>本市については、現在最安値の病院での雄猫の手術に対して4,000円を助成し、自己負担額は1,000円であるが、雌猫の手術に対しては5,000円を助成し、自己負担額は5,000円だと聞いている。</p> <p>そこで、雌猫の手術に対する助成額を9,000円に拡充し、雄猫同様最安値の病院での自己負担額が1,000円となるように拡充を検討してはどうか。</p> <p>また、ボランティア団体との連携強化など、今後の支援策推進に関してはどのように考えているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4			<p>加賀市の地域資源を一体的に活用した観光戦略について</p> <p>今年の3月定例会で、農産物・海産物・飲料・器・温泉が揃っている、全国有数の食文化のまちとして、農産物や海産物、山中漆器や九谷焼、地酒やお茶、坂網鴨、温泉など地域資源を一体的に活用した「作る・食べる・癒される」といった体験型旅行商品の開発や一体的なPR事業について提案し、その答弁の内容は、「一般社団法人加賀市観光交流機構を中心として市と連携し取り組んでいき、様々な事業者と協力し造成した体験型旅行商品を、トップセールスでのPR会議で、旅行会社やメディアにPRして行く」とのことであったが、その後新たな旅行商品の開発は行ったのか。</p> <p>また、今定例会で予算計上し行う予定の旅行商品企画販売促進PR事業（トップセールス）には、3月定例会での答弁内容が反映されているのか。</p>	
5			<p>加賀市民栄誉賞制度の導入について</p> <p>現在加賀市役所の正面に、第26回世界相撲選手権で団体優勝、個人で無差別級優勝の池田俊選手と、軽重量級3位となった、三輪隼人選手、両選手に対し祝勝を祝う垂れ幕が掲げられている。</p> <p>世界選手権での優勝は、オリンピックの種目にはない相撲競技においては、オリンピックの金メダルに値するものであり、その他にも両選手は全日本相撲選手権などあらゆる大会で優勝や入賞をしている。</p> <p>他の自治体では、スポーツや文化などの分野で活躍し、市の誇りとして市民から敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えた方に対し、「市民栄誉賞」を授与する制度を設けている自治体があるが、本市でも「加賀市民栄誉賞制度」を新たに設け、池田・三輪両選手に授与し、栄誉をたたえてはどうか。</p> <p>また、この制度を設けることで、今後スポーツ界におけるアスリートの育成や伝統工芸の技術の向上、そのほかにも学術、芸術などの分野に携わる方々のモチベーションの向上にもつながると考えるが、所見を問う。</p>	